

## 目 次

## ★第25期事務局★

## ★会費納入のお知らせ★

## ★新著・新編著発行時のお願い★

1. 2013年7月6日開催研究例会の報告要旨
2. 国際社会学会 (ISA) のRC30 (労働社会学) の案内
3. [再掲] 2013年度大会プレシンポジウムのお知らせ

## ★日本労働社会学会事務局 (第25期) ★

〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学政経学部

中川 功 (なかがわ いさお) 研究室気付

TEL/ FAX: 03-3947-9174

E-mail: [laborsociology1988@gmail.com](mailto:laborsociology1988@gmail.com) 学会HP: <http://www.jals.jp/>

(学会ホームページがリニューアルされました。気が付いた点などお知らせください。)

## ★会費納入のお知らせ★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】口座番号: 00150-1-85076 加入者名: 日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員: 6,000円 一般会員: 10,000円

会費減免制度については、下記URLをご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

## ★新著・新編著発行時のお願い★

会員のみなさん、新著や新編著を出された方はWeb担当の吉田宛てに連絡くださるようお願いいたします。新装開店の学会Webで紹介するとともに、本学会の業績把握や奨励賞候補作の選定に資するべく、情報発信を強化していきます。

## 1. 2013年7月6日開催研究例会の報告要旨

2013年7月6日に第25期第2回研究例会を開催しました。報告者お二人による報告要旨を掲載します。

研究活動委員会

## 【第一報告】

報告者: 扇健夫会員 (立命館大学社会学研究科博士後期課程)

タイトル: 大企業製造業ホワイトカラーの「働きがい」の変容

日本の製造業においていくつかの業界において生じた1990年後半からの業績低迷下において大企業で働くホワイトカラーの「働きがい」はどのように変容したのかという研究に関する報告をさせて頂きました。本研究では、「なりわい」と「職」という職業の二つの構成要素の内、「職」(個性発揮による役割の実現)に注目し、「働きがい」を「個人が働くという行為を自分の志向性に従い評価した時の充実・満足の感情」と定義しました。そして、職務能力、働くことへの姿勢、及び、個人の働くことへの「志向性」と職務内容等で構成される「場」の適合性(各個人の「志向性」を実現できる「場」で働く行為が行えているか)の3つの要因が「働きがい」を規定するという一定期間の「働きがい」の静態的側面を捉える分析枠組みと「場」の変容により「働きがい」が変容するという動態的側面を捉える分析枠組み構築を行いました。次にこの分析枠組みを下に、日本の代表的な大企業製造業で働く50歳前後の文系、学卒、男性、管理職のホワイトカラー8名に対して現在の「働きがい」の状態や「志向性」と「場」の適合性を確認するインタビューを行い、その結果から、大企業製造業ホワイトカラーの「働きがい」の規定要因と業績低迷下における「働きがい」変容状況の考察を行いました。

インタビュー対象者は、長い職業経験で職務能力を有し、仕事に対する前向きな姿勢を有しており、「志向性」と「場」の適合性が「働きがい」を規定している事実が確認されました。また、対象者8名のうち6名において「働きがい」が低下していました。それは、業界成長過程で形成された対象者の「開拓」、「成長」、「貢献」等の「志向性」が業界成長低下による職務内容の変容により実現できなくなった（「志向性」と「場」の適合性が失われた）結果として捉えることができます。さらに、「場」の変容により「働きがい」が満たされない場合、働くことを手段志向にとらえるというような「志向性」の変化も確認されました。

質疑応答においては、「場」や「志向性」といった概念整理を丁寧に行うこと、対象者の労務人事管理状況を記述すること、「志向性」と「場」の適合性に関しては共通の物差しを立てること、対象者選定の工夫などの多くの意見・コメントを頂きました。今回の貴重な意見・コメントを生かし、「働きがい」分析枠組みの見直しと精緻化 及び、インタビュー質問内容の見直しを行い、異なる世代等へも対象を広げ、ホワイトカラーの「働きがい」の変容というテーマの研究を継続してまいります。

## 【第二報告】

報告者：岡村徹也会員（中京大学現代社会学部非常勤講師）

タイトル：企業ボランティアにおけるワーク・ライフ・バランスに関する一考察～トヨタ自動車のボランティア活動を例として

トヨタ自動車社会貢献活動として行っているボランティア活動を対象に「ワーク・ライフ・バランス」の視点から、企業および個人の社会貢献・地域貢献と自己実現について、トヨタ本社（愛知県豊田市）でボランティア活動に携わっている関係者へのインタビュー調査から得られた知見をもとに報告しました。

「企業の社会貢献活動」「企業ボランティア」について、「ワーク・ライフ・バランス」の視点を持ち込んで分析・考察するという内容でしたが、私自身、得られた調査データに対して、「ワーク・ライフ・バランス」という分析枠組みが適当なのかどうか、といった大きな悩みを抱えての報告でした。

ご参加いただいた諸先生方からは多くの質問に加え、鋭い指摘や建設的なアドバイスを長時間に渡っていただき、非常に実り多き時間となりました。特に「トヨタ自動車のボランティア活動を分析するのに、ワーク・ライフ・バランスという分析枠組みを用いるのが本当に合っているのかどうか」「タイトルから見るとあまりにも実態（調査データ）とかけ離れているのではないか」とのご指摘は改めて研究の方向性を考え直すきっかけとなりました。

その上で、得られたデータに対するタイトルの付け方に加えて、分析枠組みの変更も含めた研究の大きな方向性について、議論の中から見出すことができたことは本当に有意義でした。いただいたアドバイスを元に現在は新たな枠組みから「トヨタ自動車のボランティア活動」について再度アプローチを試みています。

今回、このような貴重な報告の機会をいただきましたことをあらためて深く御礼申し上げます。

## 2. 国際社会学会（ISA）のRC30（労働社会学）の案内

日本労働社会学会 会員みなさま

2014年7月13日から19日まで横浜で、国際社会学会・世界社会学会議が開催されます。RC30（労働社会学）部会の公募セッション案内が公開を開始しております。エントリーの締切は2013年9月30日です。ご関心のある方は下記URLをご参照ください。また、添付の文書もご覧ください。日本から大勢の方々によるご発表ならびにご参加を期待しております。

<http://www.isa-sociology.org/congress2014/rc/rc.php?n=RC30>

☆関連資料の本メール添付☆

「poster-isa-congress2014」

「RC30 Call For Papers - Sociology of Work ISA World Congress of Sociology...」

3. [再掲] 2013年度大会プレシンポジウムのお知らせ

開催日時：9月7日（土）午後3時30分～午後6時

開催場所：専修大学神田キャンパス7号館764教室

報告者・テーマ：

1. 介護労働の分析  
報告者：山根純佳
2. 看護労働の分析  
報告者：小村由香
3. サービス産業の労働実態と労働運動  
報告者：UAゼンセン 木暮弘\*
4. サービス労働論の理論的課題  
報告者：鈴木和雄

\*コメンテーター 大野威

\*木暮氏は公用で出席できないので報告要旨を京谷が紹介する予定です。

以上

\*\*\*\*\*